

金井 淳二

私は、スポーツが個人や社会との関係でどのように成り立っているのかを研究する一般的に「スポーツ原論」という領域を“専門”としている。研究領域は少し理屈っぽいですが、普段はあらゆるスポーツをプレイすることに興味・関心があり、とりわけ、釣りやスキーやゴルフや登山等々、自然と一体化したスポーツを楽しんでいる。

### 1. 専門演習の目標

私たちはどんな社会に生きているのかを見わたしながら、どんなスポーツ問題がどのように社会と結びついて生じてきているのか、これからスポーツはどのような方向に展開するのかを探ること（スポーツの生活化の課題は何か）、そしてそうしたスポーツ問題に私たちはどうかかわっていくのかを考えること（生活のスポーツ化にむけた力量をどのように形成するか）、以上ふたつを統一のとらえる「スポーツ眼」を研ぎ澄まそう。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

最近スポーツでも「見る」スポーツの独自の存在が盛んに強調されてきている。他方では冬季種目のスキー・スケートの競技人口は減少傾向、Jリーグの観客も伸び悩み。マスメディアによる「見る」の煽り立てにもかかわらず減少や伸び悩みは何故か。

Jリーグの存亡をかけ、スポーツ振興を名目にして始められたた「サッカーくじ」も、いまや破綻状況である。過去の文部大臣をして「スポーツ（予算）貧国」と「自認」する中で、ギャンブルに依存して提起された「スポーツ振興基本計画」は国民のスポーツをどこへ導くのか。昨今、大相撲に於ける「力士急死事件」や野球に於ける一部の大学とプロの「裏金癒着」問題・「特待生問題」等々、「見る」対象としてのスポーツに様々な「醜聞」が露呈した。こうした現象の本質は何か。このような、ちょっと目に付いたいろいろなスポーツ事象をを掘り下げ、人間と社会とスポーツ文化のかかわりを多面的に考えてみよう。

### 3. 授業の進め方・内容

3回生時はテキストを章毎に担当グループを決めて報告し討議し深める。4回生時は卒業論文作成を目指してスポーツを見る視点や分析方法を学びスポーツ文化を掘り下げる。

### 4. 必要とする知識

スポーツ活動を通してえられたスポーツ実感（感性的認識）が自覚化されている必要がある。

### 5. 関連する分野・科目・知識

スポーツ関係の専門科目および一般教育科目（スポーツ学は学際的な学問領域であり、様々な科目の履修で培った力が共同の力として発揮されることを期待したい）。

### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

共通に学ぶテキストとして『スポーツ文化を学ぶ人のために』（世界思想社刊）を用いる。

### 7. 独自に付加する選考方法

特になし。

### 8. 受講生に望むこと

自分が自分自身にあれこれ指図できるよう、指示待ちにならないよう主体的に行動して欲しい。また、個別に存在しているかのように見えることがらを関連づけて考える思考習慣を身につけて欲しい。